

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201587		
法人名	(株)日本ケアオリティ		
事業所名	グループホーム服織(1階)		
所在地	静岡市葵区羽鳥2丁目15-50		
自己評価作成日	平成23年10月25日	評価結果市町村受理日	平成23年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2274201587&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(有)システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成23年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

できるだけ楽しく 自立した生活ができるよう支援 援助させて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商店街や中学校にもほど近い住宅地に立地している。事業所主催の「秋祭り」は恒例行事となっていて、近隣住人の参加も多い。また近所の中学校から職場体験に来たり小学生の学習も受け入れ、ボランティア活動などの訪問も多い。近隣には介護保険事業所も多く、連絡会を通じ情報共有や相談などの関係ができています。事業所内では普段から計算ドリルをおこなったり、洗濯物の片付けを手伝ってもらったりすることで、心身の活性化をはかっている。管理者の指導は厳しいが、主旨を明確にし職員の自己決定を尊重しているためか定着率が高く、職員の介護に対する意識も高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホーム服織(1階)	職員皆で作上げた理念を基に新人職員も共有し実践している。	「穏やかに心豊かに過ごせる家」という理念に基づいて利用者本位のケアを実践している。理念の文言にとらわれず「職員が楽しくないと利用者が楽しくない」として日々の職務の中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りや防災訓練に参加。洋服等近所の洋品店に買い物に行く。	事業所主催の「秋祭り」を毎年開催している。ポスターを貼ったり、近所に訪問したり、回覧板で周知しているため、地域の住民も参加し一緒に楽しめる機会になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームのお祭りを通してポスターをスーパー等に貼らせて頂き声掛けさせて頂く。中学生の職場体験の受け入れ		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度計画し開催 報告している。	運営推進会議には、町内会長、近隣住民、民生委員、包括職員、介護相談員、家族、利用者など多彩な職種からの参加が得られている。テーマを絞らないことで、自由な発言が得られることも多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の受け入れをさせて頂いているので連携をとらせて頂いている。ワーカーの訪問もして頂いている。	生活支援課と連携をおこない、また高齢介護課とも新規利用者についての相談などがある。市主催の研修にも積極的に参加している。また、介護相談員の受け入れも毎月おこなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ドアにブザーをつけたり工夫をし施錠はしない	身体拘束ゼロ宣言を継続し、玄関も施錠していない。スピーチロックについては勉強会を開催し、理論だけでなく職場の実践として話し合い理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員勉強会等行い話し合う機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護 成年後見制度を利用している方がいるので制度の勉強はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約 退居時は管理者が説明し同意頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での意見 運営推進会議での意見 外部評価の家族アンケート 面会時家族の意見を伺うことで反映している。	ユニットごとに「はとり新聞」を発行し、家族から好評を得ている。施設運営については家族の協力が必要であると捉え、家族会の開催など積極的に家族にかかわっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と個人面談の機会を設け意見は聞いている	職員には一定の権限を委譲し、自由な決定を尊重している。また、カンファレンスでは積極的な発言も多い。個人面談も年2回開催し、職種の会話にとどまらず親身になって相談にのっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議 管理者との面談等で話しをさせて頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修 内部研修 個々の力量等考慮し行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者の研修の受け入れ 地域のケアマネ研修等参加している。他事業所へ勉強に出向いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が話せれば面談時話を伺う。又入居時にも伺い不安が少しでも取り除ければと努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時話を伺う。又入居時にも伺い不安が少しでも取り除ければと努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント活用 本人 家族の状況等考慮し努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にするというを基に大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会にみえられた時など近況報告し本人の生活を共有し関係を築いている。ホームの新聞等で日常生活の様子を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の立場に立って考え部屋の工夫等している。	家族の面会は頻繁にある。家族が協力して、一時帰宅したり葬儀に参列することもある。商店街も近いので、馴染みの美容室や診療所に通うことも出来る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの場を設け参加して頂くよう声掛けし皆で楽しめる場を作る		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族 本人より時折連絡が入ったりする。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別対応し本人の希望が難しい件はご家族に相談させて頂いている。	利用者ごとに担当を設けている。アセスメントは一義的に担当がおこない、他職員が気づいた点を後から反映し、職員間で共有している。意向が把握しにくい場合は家族から聞き取ったり、前後の言動から判断している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プランを立案する際以前の生活等を考え会議で話しあったり家族 居宅でのケアマネむに情報提供して頂いている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態 能力を把握しできるだけ自立した生活ができるよう支援している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1ケース会議を開き意見を吸い上げ作成している。	担当者が主となってアセスメントし、ユニットごとのカンファレンスの結果を基に計画作成担当が計画を作成している。できるだけ利用者の生活が楽しくなるように心掛けて計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング ケースノート 申し送りノートの活用で情報の共有を図っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画の変更はできること 利用者の状態変化に伴い必要なことをみて取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のお祭り参加 ホームの祭りに地域の方に見えて頂き近隣のお店等も活用させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が同行し定期的を受診し困難な方は往診をお願いしている。必要時は家族に相談し総合病院に関してはご家族にお願いしている。	入居前に利用者家族に相談した結果、協力医に変更する利用者も多い。総合病院への受診については原則として家族にお願いしている。検査結果については書面、電話などで確認し記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は週1お願いし相談にのって頂いている。日誌をつけ受診状況も報告。時には病院にも連絡をとって頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室と連携を図り職員も面会に行くよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時に説明はさせて頂いている。	施設でできる医療行為に限界があることを入所前に説明している。終末期のケアについては医師、看護師、家族の協力が必須であると認識して協力を仰いでいる。ただし、現在まで看取りの実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームでの勉強会 訪問看護の協力もお願している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得ながら防災訓練を行なっている。又運営推進会議の中でも地域の方の協力をお願いしている。月1ホームにて防災訓練を行なっている。	事業所でおこなう防災訓練では避難所まで実際に移動し、地域の防災訓練にも利用者が参加出来ている。災害時に備えて近隣からも協力が得られるように、事前に話し合っている。	近隣住民の防災訓練への参加が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方にあった声掛けをしている。対応が難しい場合は職員が替わったりしている。	利用者の状態や生活歴に応じて、個々の尊厳を損なわないように接している。利用者の居室に入る際には必ずノックしたり、利用者の呼称について本人に同意のうえ個々に検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ自分の意思が言えるよう働きかけている。待つということもしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日日課通りに生活をしている訳ではないので日々その時その都度支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時折口紅等つけている方もいるが だんだん難しくなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と野菜を切ったり盛り付けされたり一緒に行っている。利用者様にできるだけ沿うような食事を考えて調理している。	魚屋、肉屋などから新鮮な食材が届けられ、ユニットごとに手作りの料理を提供している。利用者からは準備や片付けなど手伝いたいと希望も多く、当番を決めて手伝ってもらっているほどである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材メニューがかぶらない配慮 利用者の体調把握しながら食事作りに努めている。水分チェック表をつけ対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 声掛け 誘導し口腔ケアしている。ポリドント洗浄も毎晩行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用 本人のしぐさ等で声掛けトイレ誘導しトイレでの排泄支援をできるだけ支援継続している。	トイレの場所が分からなかったり、判断能力が低下している利用者には定期的に職員が誘導している。排泄については個別のカンファレンスをもとに、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認し必要時は下剤投与している。又牛乳 廊下歩行などで排便を促す援助はしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日 時間等の決まりはない為 その方にあつた支援をしている。入浴中の会話等で楽しめたり ゆっくりできる時間が持てるよう支援している。	入浴は曜日、時間にかかわらず制限なくいつでも入浴できる。利用者の希望で「1時間でも」ということもあるが、体調もみながら寛いでもらっている。利用者の身体状況に応じて見守り、また2人介助して安全を確保している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を特に設けず できるだけ自由にしている。ソファーで うたたねしている時は極力見守りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬はきちんと飲むまで確認 薬の変更時等は支援日誌 引継ぎ等で必ず情報の共有はしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあつた役割分担 楽しみや できることを利用者と一緒に探していく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩 ドライブ 季節行事 外食等支援している。ご家族も外食に参加したりしている。	近所の公園など複数コースから選択して散歩することができる。商店街も近く、一緒に買い物に出掛けることも多い。法人内の事業所から自動車を借りて紅葉を見に行ったり、定期的に外食に出かけ楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホーム預かりだがご家族了解のもと小銭を持って近隣に買い物に行く人もいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月末のお便りに自筆で手紙を書いて頂いている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり食堂に音楽を流している。温度 換気調節もしている。	1階では、折り紙や小道具を使って創作した季節の掲示物を展示し、利用者の特性に応じてソファの位置を工夫している。朝食後、掃除の時間帯を決め、利用者全員で取り組める機会を設けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂で過ごす利用者が多くテーブルの席は極力配慮している。声掛け等にも配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を飾ったり自分の作品を飾ったりしている。タンスに衣類の分別ができるよう貼っているが剥がしてしまうのが現状	1階の居室には使い慣れた家具や仏壇が持ち込まれ、従来の生活スタイルを継続している様子を確認した。行事の際のスナップ写真も飾られ、居室内でも飽きのこない空間が作られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見えるところにトイレとわかるよう工夫している。			